

「確かな学力の定着・向上をめざして」

～「楽しい」「わかる」「力がついている」を実感できる授業づくり～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

(1) 教師の指導力

- R-PDCAサイクルによる授業改善の推進
- 発達段階に応じた指導の工夫による基礎的・基本的な知識・技能の定着
- 知識・技能を活用する言語活動と、それを支え、育む言語環境の充実

(2) 学校の経営力

- 校務分掌の単純化 ○定例会議の精選
- 授業実践をもとにしたカリキュラムの蓄積

(3) 家庭の教育力

- 家庭学習を必要とする授業づくり

2 研究の柱となる方法

(1) 授業構想検討会・授業改善プラン検討会

- 単元の特性や教材の価値をとらえ、指導する内容を精選し、その単元で指導するねらいを明確にする。
- 単元のねらいを達成するために、児童の実態を把握し、適切な指導過程と指導方法を用いて、授業の組み立てを考える。
- 実践後は、授業実践のまとめや学力評価を行い、授業改善プランを作成する。

(2) 授業研究会

- イベント的な授業ではなく、日々の授業の一コマを公開する。
- 学力の実態把握及び診断を公開し、評価を受け、改善を行う。

(3) 学級力向上プロジェクト

- 「学級力アンケート」の分析結果をもとに、「スマイルタイム」を通して学級改善を図る。

II 成果と課題

1 成果

(1) 授業構想検討会・授業改善プラン検討会

実践の積み重ねが求められる単元を選択し、その活用学習に取り組んだ。授業構想検討会においては、昨年度の改善プランをもとに、より実践的な検討会を行った。授業後、授業実践のまとめや評価を行い、授業改善プランを作成した。次年度の教育課程の実施に生かせるよう、学習教材についてもデータ化を図った。

2年 国語 ○知っていることをつなげて読もう「おにごっこ」

活用学習「自分たちの遊びブックをつくろう」

3年 算数 ○かけ算の筆算「かけ算の筆算を考えよう」

活用学習「かける数が大きくなったら」

- 4年 算数 ○わり算の筆算（1）「わり算のしかたを考えよう」
活用学習「わり算の問題を考えよう」
- 5年 算数 ○単位量あたりの大きさ「比べ方を考えよう」
活用学習「安いのはどれ」
- 6年 算数 ○比と比の値「割合の表し方を考えよう」
活用学習「比を使って考えよう」

(2) 授業研究会

授業研究会において、授業リフレクション（対話リフレクション・集団リフレクション）を行った。さらに、常任アドバイザー及び指導主事から指導助言をいただき、授業改善に生かせる研究会を行うことができた。

(3) 学級力向上プロジェクト

学級力レーダーチャートをもとに、学級の仲間づくりの成果と課題について、友達と協力して診断し、改善策を話し合い、学級力が少しずつ高まってきた。また、学級力ミーティングでは、全職員で情報交換を行い、共通理解及び今後の取組に向けて意欲づけを図ることができた。

(4) 調査及び検査結果の活用

学力・学習状況調査及び学力把握調査のデータの分析に基づき、学級や個人の具体的実態を把握し、指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2 課題

(1) 活用学習の継続

3年間の研究成果として、各学年において、活用学習の実践が蓄積された。年度末に指導計画に位置づけ、学力向上への取組を継続するようしていく。

(2) 習得と活用の関連

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得について形成的評価を行い、習得を確かなものにしていくとともに、活用できる知識及び技能を明確にしていく。

(3) 調査及び検査結果から

「学力学習状況調査」「学力把握調査」の結果から、国語では、「条件を読み取って書く」「条件を付した記述をする」ことに、算数では、「示された情報の中から適切なものを選択し、必要十分な論拠を示しながら説明したり書いたりする」ことに課題があった。知識・技能の習得・定着とともに活用学習（論理的に考え、言葉を使って論理的に表現する学習）を各学年にわたり継続して行うことが求められる。

(4) 活用学習

活用学習を進める際、時間をかけて丁寧に学習を進めることが大切である。そのため、教科間等の指導内容の接続・連携が求められる。また、活用学習の継続化とともに、活用学習を他の単元・他教科に広げることが必要である。

(5) 家庭へのはたらきかけ

授業とリンクした家庭学習の取組を継続し、さらに家庭学習力を育てていく必要がある。

(研究主任 高野 栄子)